

# UIFA JAPON NEWSLETTER

## ■主な内容

### UIFA JAPON 10周年記念イベント

ド・ラ・トゥール UIFA 会長の記念講演とメッセージ  
名古屋での建築訪問記

「私にとってのユニバーサルデザイン」写真展

海外交流の会報告 「日本のライト」

「目と手としての建築」

同潤会 江戸川アパートメントの見学会

大塚女子アパートメントのこと

私の考えるユニバーサルデザイン

記念事業経過報告 役員会報告



ド・ラ・トゥール  
UIFA 会長



会議風景

## ド・ラ・トゥールUIFA会長記念講演「私の仕事と人生」

—次の10年にむけて歩み始めるために—

松川淳子

UIFA JAPON 設立10周年記念イベントは、散り残った桜と若葉の美しい名古屋から始まった。

フランスから UIFA 会長ド・ラ・トゥールさんをお迎えしての記念講演「私の仕事と人生」。飛行機や新幹線での長旅の疲れもものともせず、会長はいつもの通りユーモアを交えながらお元気に講演された。「あまり自分のことを話したことがないのだけれど」と前置きしながら、ルーマニアで建築を学び、フランスに移り、パリ市庁で仕事をしたいと思ったこと、当時はそのためには「建築の学校を出ていること、軍隊の経験があること、男性であること」という三条件があって叶わなかったこと、それは UIFA を設立する大きな動機となったこと、今では笑って話せることでも当時は無我夢中だったことなどについて話され、「辛い経験を乗り越えてここまで来られたのは両親のサポートがあったことも大きく、とても感謝している」と付け加えられた。締めくくりの言葉は、「今、状況は変わり、女性は認められつつある。しかし国によっても事情は異なり、女性であるだけで教育を受けられない国さえある。ひとりでは何も出来ない、UIFA は世界の平和や平等のためにももっと貢献したい。また、経済原理第一主義の環境の中で造りたくないものも造らなければならないという状況もあるが、それでも、ベストを尽くしたい。そのためにも女性がもっと信頼されることが大切である。」というものであった。日本大会でお世話になった石川金治氏（徳倉建設最高顧問）もご参加くださって、これまでの歩みを振り返り、今後の活動に向けイメージとエネルギーを生むすてきな講演会となった。

主会場を東京以外の都市に設定した初のケースだったが、名古屋の皆様がチームワークを発揮、めんどろな作業を引き受け、会を盛り上げてくださった。感謝！

## “My Work and Life”,

### Commemorative Lecture by the President of UIFA for Celebrating 10th Anniversary of UIFA JAPON

(Vice president of UIFA JAPON) MATSUKAWA Junko

This lecture was presented by Mme. Solange D' Herbez de la Tour on 12th April in Nagoya.

She explained that although she graduated from the professional course of University at Romania, in order to work at Paris City Hall, they need three conditions at that time: being a man, a diploma of professional course of architecture and military experience. She gave up to work at Paris City Hall and set her own atelier. And this experience strongly motivated her to found UIFA. She concluded her lecture with the following message. Although the situation surrounding women became better than before, there are many people who cannot have the right to be educated, so, women should try to work harder to realize the peaceful and equal world. Besides, by economical reason, we often face the case to design buildings even not willing to. To change these circumstances, women have to appeal themselves through their works to be trustworthy.

Her lecture was very helpful for us to image our next 10years' activity and create our energy for it. We would like to express our heartfelt thanks to her.

## ド・ラ・トゥールUIFA会長からのメッセージ

このような機会を与えて下さった UIFA JAPON の名誉会長中原暢子様および会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。このような会議を通してあらゆる公共団体が女性建築家を信頼し、多くの建築や環境の仕事が与えられることを願いたいと思います。皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

*Je remercie l'UIFA Japon et sa présidente Nobuko Nakahara, ainsi que son staff pour l'invitation qui m'a été faite. J'espère que cette réunion aura motivé les pouvoirs publics à faire plus confiance aux femmes architectes afin de leur confier des travaux d'architecture et préserver un environnement bâti. Je vous souhaite à tous beaucoup de succès dans les années à venir.*  
Solange. D'Herbez de la Tour

## Message from Mme. Solange D'Herbez de la Tour

I would like to thank the honor president of UIFA JAPON, Nobuko Nakahara and staffs for your invitation to the conference. I hope that the conference will promote public to confide in female architects and increase the opportunity to work in the field of architecture and environment. I wish you success in the future.

## 2003 年度総会・記念講演・懇親会のお知らせ

日時：2003年6月28日(土)13:30~17:00

場所：自由学園 明日館 教室タリアセン ROOM 1921

記念講演：「学校建築と私」講師=富田玲子氏(象設計集団)

## 他のUIFA JAPON 10周年記念イベント ● The 10<sup>th</sup> Anniversary of UIFA JAPON- Another Events

### ◇名古屋建築訪問記

#### Tour to Visit Architecture in NAGOYA

##### ■大江宏設計によるもう一つの能楽堂

##### The Noh-Theatre by arch. OOE Hiroshi

RC造と伝統的の木構造との絶妙な出会いを演出した空間は、規模こそ違え、千駄ヶ谷の国立能楽堂と同様に静謐な空間だ。翌朝、愛犬と散歩する年輩のご婦人は、「わたしはあそこ（門を指さしながら）から見る屋根が好きなの、・・・夕日を浴びて浮かび上がる姿って、平安絵巻のようで素敵よ」と。住民の心の中にとけ込む建築を感じた。

##### ■ホテルのリノヴェーションーウェスティンナゴヤキャッスル

##### Renovated hotel by Aran JENKINS-The Westin Nagoya Castle

ウェスティンの傘下となり、アラン・ジェンキンスによってリノヴェーションされた空間は、国際的な競争力を持った斬新なデザインとなって再生された。同じ外資系の名古屋駅のマリオットアソシアホテルとの対比も興味深かった。

##### ■名古屋撞木町あるき

##### Walking Tour around Old Shumoku-cho Area

名古屋市市政資料館（ネオバロック様式の旧地裁）裁く・裁かれることは同じでも、しつらえの違いで罪の重さまで違ってきそうな重厚な空間。モニターによる名古屋建築案内が行われていた。撞木町を歩く。名古屋城に近く、街の歴史は古く、今でも戦災から免れた建物が点在する。春田文化集合住宅（住宅史上必見）、レストランにリニューアルされた春田邸（武田伍一）、主税町カソリック教会は切妻の建物の正面にポーチコととんがり屋根を設けた素朴な心を感じる小さな教会、木造2階建ての長屋は中央通り抜けから裏庭に通じている、そして撞木館、ここで井元家から7年間借り受け「街の縁側づくり」を進めてきた話を伺う。

##### ■建築家の自邸訪問

##### Visiting TANIMURA Rutsu Self-Designed House

谷村家を訪ねた。紫色のピンカマジオールや雑草・ボードデッキの心地よい屋外空間と、吉村順三を彷彿させる天井の押さえられた暖炉のある居間や、動きやすそうな水回り、魅力的なアートワークや新参のYチェアが、コンパクトに建築家の日常をフレーミングしていた。（井出）



能楽堂  
Noh-Theatre



ロビー  
Lounge of the Hotel



市政史料館  
Former Court House



撞木館  
Shumokukan

### 海外交流の会報告

### International Community Lecture Series

NO. 28

第28回 2003年2月8日

日本のライト ～記録と記憶の間～

建築史家・工学博士

谷川正己

従来語り継がれてきたライトの日本での業績や行状の多くは、エピソードを基底とするものが主流であった。ライトが語る「自叙伝」をはじめ、建築評論家や伝記作家が当時の資料を確認することなく語ったそれらは、神格化された巨匠像を形成してしまっただけだ。

日本での出来事を確認することは、われわれにとっては、さほど困難なことではない。事実はどういうことであったのか確かめるための、一次資料は数多く存在する。これらの資料を充分活用して、ライトがわが国に何をもちたらし、また、わが国から何を学んだのかを再確認するのであればライトの今日の意義は空しいものになるだろう。

例えば、帝国ホテルの耐震神話。関東大震災から無傷で救われた天才の記念碑のようなホテル。ライトが施した耐震設計が功を奏したのだ、という話。これは、ライトが自叙伝の中で語る彼の希求であるのだが、わが国での被災の報告書などに照らせば、無傷ではなかったことが解る。また、ホテルの壁面を特徴あるものとした大谷石。当初、ライトが使用したいと願った石材は蜂ノ巣石であった事実を照らすとき、暖色系の蜂ノ巣石が寒色系の大谷石に変更されたことによるホテルの雰囲気の違いをわれわれはどう理解するべきか。

ライトが初来日時に撮影したわが国の写真の数々の考証を通して、彼がわが国の何に関心があったかを確認すれば、彼が自叙伝の中で述べる「疲れるだけの旅」ではなかったはずだ。

記録によって、ライトと日本の関わりを確かめるとき従来とは余程異なるライト像が想起されることになる。



**Frank Lloyd Wright in Japan**  
- Records versus Recollection -  
Ph.D. TANIGAWA Masami  
: architectural historian

There have been many episodic stories about Frank Lloyd Wright in Japan, but most of them were not confirmed on the data or records.

These stories that told or written by architectural critics and biographers made the architect defined. But to making research to know the truth might not be so difficult for us being in Japan. The story of "the Imperial Hotel standing undamaged as a monument of the genius" might be what Wright wished. We know and understand it was not exactly correct, if we only refer to the official reports on 'damage of the quake.'

Another story about 'Oya stone.' This material made the hotel building so characteristic, but it was not the stone Wright wanted to use at first. It was 'Hachinosu-ishi,' more bright and warm colored stone, but not enough produced. It might be interesting to imagine the different features and atmosphere of the hotel.

Studying the photographs Wright took himself in his first visit to Japan, we may know what he was interested in. It might not be a trip "all but tired out". To study 'encounter of Wright and Japan' in referring with the records and documents will give us some different image of Frank Lloyd Wright.

## ■伊勢神宮

### ISE Shrine : The Endless Renaissance = Every 20 Years

天照大御神(女性神)をお祭りする内宮を UIFA の代表がお参りする事は意義深く、御神楽の、雅楽と舞に触れ、遅咲きの桜まじる新緑の中で、清々しい気持ちとなった。

20 年毎の遷宮のたびに、例えば棟持柱が、入り口の鳥居の材となり、その 20 年後は各地の神社の材としてありがたく活用され、末は木札として各家々に祀られて行くリサイクルの連鎖は 1400 年も続いて来たという。屋根の荷重は、実は床上部分では、2 寸の壁に支えられている事や白い玉砂利からいきなり檜の柱が存在する不思議等、解明されているとは言え、年に 380 回を超えるさまざまな儀式と共に、この非日常的空間には美と生命力が存在していた。

## ◇それぞれの思い

### 写真展 - 「私にとってのユニバーサルデザイン」

10 周年記念イベント「写真展—わたしにとってのユニバーサルデザイン」が名古屋と東京の 2 ヲ所で開催された。ユニバーサルデザインはきわめて広い概念で、集まった 40 点も自分の作品だけでなく多様なものを取り上げられていた。

4 月 12 日午後開催の名古屋では出展者が説明。本人の口から語られるとなお説得力がある。青い水面に十字架が写り込

んだアスブルンド墓地の美しい写真は、小川会長の苦心作。この世とあの世をつなぐ風景だとのこと。これまでこうした視点であり過ぎてこなかったというド・ラ・トゥールさんもそれぞれの発表を熱心に聞き入っていた。

会場を東京に移した 16 日夕方は吉田あこさんを中心にワークショップの形で進められ、痴呆化への対応、アイデンティティ、リロケーションの 3 つテーマに分かれて住宅や暮らしのデザインまで突っ込んだ意見が交わされた。テーマごとの発表の後にド・ラ・トゥールさんが語ったところでは、フランスではペットを飼うことが推奨されているとか。生き物に触れられることを大切に考え、小さくても庭を造るようにしているとのことだった。

ユニバーサルデザインをあらゆる切り口でとらえた今回の写真展は、デザインに携わる我々だけでなく皆と一緒に考えていかなければならない問題であることを強く意識させるものとなった。(須永)

### Various Eyes on Universal Design

The 10th anniversary event, "Photo Exhibition - My View on Universal Design" was held in two places, Nagoya and Tokyo. 40 photographs submitted by the UIFA JAPON members were exhibited. In Nagoya, the participants presented their own works with the attendance of Mme. de la Tour. In Tokyo, active arguments were exchanged in the workshop. The event made us aware the importance of Universal Design and we will keep on considering the meaning of it.



春田文化集合住宅  
Haruta Town House



谷村邸の庭  
Tanimura's House



伊勢神宮  
1/5 Model of Ise Shrine



写真展  
Photo Exhibition

## 海外交流の会報告

## International Community Lecture Series NO. 29

### 第 29 回 2003 年 3 月 29 日

### 「目と手としての建築」—稲富先生のお話を聞いて

山田規矩子

- I. 私の建築修行中 (1953~2003) に出会った良き教師達
- II. 巨大社会における公共性と建築家の立場
- III. 目と手としての建築
- IV. 今、なぜ UIFA か—グロピウスの遺言

これは、先生がつけて下さったサブタイトルである。ヴァージニア工科大学、MIT、ハーヴァード大学で、建築や都市計画を学ばれ、グロピウス主宰の TAC で仕事をされた先生の御経歴が示すように、私達が現代建築史の授業でその名を学んだり、雑誌や書物でその名を知った、いわゆる Professor Architect 達に、先生は直接学んでおられる。遠い存在として認識していたそれ等建築家達を先生の温厚な語り口から、とても近い人達のように感じた。

先生が TAC で仕事をしておられた時、グロピウスはすでに 80 歳を超えていて、バグダット大学の計画等をしていたそう。所員 30~40 名程度の TAC は、そこで働くというより、修道院で学んでいるようだった、という先生の言葉にグロピウスの事務所の雰囲気を感じた。

現在の巨大社会における土地利用計画や公共工事の優先順位について、それ等に関わる建築家達に倫理性が必要であることを説かれた。人間や社会の痛みに敏感である

ことが必要であり、世界の人口の半分を占める女性達にはそれが出来る筈だと話された。“信仰の告白が建築です”という言葉に先生は建築をこのように捉えておられるのかと深い感銘を受けた。



### Architecture as Eyes and Hands

Lectured by INADOMI Akira, architect  
Text by YAMADA Kikuko

- I. Professors in my training years 1953-2003
- II. Architects and public in the enormous society
- III. Architecture as eyes and hands
- IV. Why UIFA now? The will of Gropius

These are the topics of the lecture by arch. Inadomi. As a student at Virginia Tech, MIT and Harvard, he learned from Prof. Gropius and other famous architects whom we know only through publications. When he worked at TAC, Gropius was about 80 years old and working on the project of Baghdad University. There were 30 to 40 staff at TAC and the atmosphere of the office was just like a monastery. He told us that architects need their own ethics to determine priority in the planning of land-use and public constructions and female architects are able to feel the pain of society and people, that is the most important point. I was very impressed by his words "Architecture is the confession of my belief."

\*前号から始まった連載「私らしく働く—地域から、組織から」はスペースの関係で割愛させて頂きました。次号をお楽しみに。編集部

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5  
麹町 E・C・K ビル 衛生生活構造研究所内  
TEL 03-5275-7861 FAX03-5275-7866  
メールアドレス uifa@LIQL.CO.JP  
発行 2003年6月3日

同潤会・江戸川アパートメントの見学会に参加して

定行まり子

昭和9年に竣工した江戸川アパートは70年の歳月を経て、今、ここに幕を閉じようとしています。この最後を見届けようと企画した見学会は、再建事業を請負う旭化成の協力を得て実現しました。すでに、居住者のいない建物は荒廃し寂しいものですが、食堂や共同浴場などの共同施設や最新の設備、細部のデザインから、高い水準の計画と共同運営の神髄を垣間見ることができたように思います。



江戸川アパート  
写真提供：伊藤香織

また、長期に渡って当アパート居住者の生活調査をおこなってこられた小川信子先生より、研究成果の一端をお話頂きました。それは家族の拡大・成長によっても継続居住を可能にした住戸計画と居住システムについての大変興味深い内容で、今後に繋がる知見を示して下さいました。

参加者一同、江戸川アパートで培った有形無形の財産を、再建計画に充分生かして欲しいと願っていました。

私の考えるユニバーサルデザイン 18

「全てを包む豊かな心の触れ合うデザイン」

小渡 佳代子

デザインが具体的にどんなものかというには、あまりに歴史が浅い。特に、私達が今まで経験したことのない高齢社会、又、多様なライフサイクルを持つ女性の社会進出、海外からの移住者や労働者が増えている現在、すべての人が安全で快適に普通に生活をおくれるような環境づくりは、全てが手探りです。マニュアルがあっても、身体機能の低下は人によって様々。生活の環境もライフスタイルも様々。一つ一つ対応していくことによってデータはストックされ、フィードバックされることによって、ユニバーサルデザインがどのようなものか初めて見えてくる。特に公共施設、商業施設は、ユニバーサルデザインそのものでしょう。

障害者の権利や高齢者の生活環境の整備がやっとハートビル法によってスタートしたばかり。最近では、ユニバーサルデザインという言葉が流行のキーワードになっている感じもする。キャッチコピーに踊れされることなく、ユニバーサルデザインの思想を大切にデザインしていきたいと思えます。

大塚女子アパートメントのこと

渡辺喜代美

2003年4月大塚女子アパートメントはこの世から姿を消しました。1930年生まれの人知人はたくさんありますが、なんだか身近な友人を亡くした悲しい気分の連休でした。

建築学会は秋に同潤会を中心にすえた博覧会をする段取りですが2年間の闘いからみると部分保存の意味は薄く感じます。しかし、何もしないよりは都市のあり方の議論の継続が望まれるでしょう。

大塚女子アパートメントを壊すことに力を貸した人たちも無関心だった人たちが都市における記憶と新しい都市づくりは単にスクラップ&ビルドからは生まれぬことをいざれ知るようになるでしょう。

来る、6月4日地裁606室で、第3回「大塚女子アパートメント住民訴訟」裁判が行われる。14:00時から16時30分。壊されても議論をつくすことが大切として、第3回目法廷において論客は同潤会大塚女子アパートメント同世代の前野まさる先生とその年月の半分くらいのお若き熱血漢！清家剛助教授の予定。聞き応えのある陳述となるでしょう。皆様！傍聴をどうぞ。

■記念事業経過報告

UIFA JAPON の社会的な活動を新たに始めます。設立10年目のUIFA JAPON として、私たち女性建築家ならではの活動を展開していく事になりました。皆さんのお忙しい時間の中で、優れた技術と、豊富な経験をほんの少し提供して頂き、社会に貢献していこうと言うものです。

1. 公立小中学校のトイレの、快適、美的空間化。

これだけ世の中が豊かになって、ほとんどの住宅のトイレは洋式化されていると言うのに、子供達の通う学校のトイレは、和式のまま、相変わらず暗く…。UIFA JAPON は、女性建築家の視点で、母親としての目線を加え、楽しい空間に変革するための活動を開始します。今回手始めに、学校建築でユニークな活動を続けて来られた富田玲子さんに、総会で記念講演をしていただきます。私たちの目標は、実際に、実現する事です。

2. UIFA JAPON 10年の記録のデジタル化

このたび、お手元に届きましたようなパンフレットができました。これをさらに発展させ、今までの活動記録をデジタルに記録し、ホームページを開設し、身近な存在としてのUIFA JAPON をアピールします。NPOとしての認可を取得する事を視野に入れています。

3. 「私にとってのユニバーサルデザイン」小冊子作成

写真展での素敵な提案と視点を小冊子にまとめます。(中野)

■編集後記

手・心を入れ続けられない建物は朽ちていく。街の愛し方にもっと知恵を。(井出) 10周年行事、名古屋の皆様準備とおもてなしに感謝いたします(田中) 厳選された食材で「おままごと」のように毎日続けられる伊勢でのお供えの儀式は1400年。輪廻転生(中野) UIFAの可能性をまだまだ未知数。型にはめたくない。(須永) さまざまな生き方があるように「私の考えるユニバーサルデザイン」も様々な提言。10周年名古屋会議でのド・ラ・トゥール UIFA 会長の「My Work and Life」講演骨子は平等と平和への貢献。まさに Universal Design。(渡辺)

■役員会報告

- 第11回 2003年2月1日(土)  
議事: 10周年記念行事の講演会、交流会等の呼び掛け開始、パンフレット発注先、見積書4社の内容検討の上決まる、他。
- 第12回 2003年2月21日(金)  
議事: 「海外交流の会」、「この指止まれ」等の運営他。
- 第13回 2003年3月14日(金)  
議事: 10周年の役割分担とド・ラ・トゥールさんの滞日計画と予算確定。
- 第14回 2003年4月1日(火)  
議事: 10周年各イベントの内容詳細確認他。パンフレット1000部完成、配布
- 第1回 2003年4月24日(木)  
議事: 10周年記念行事の参加状況、報告、決算、総括。
- 第2回 2003年5月21日(水)  
議事: 総会に向け、決算・予算案の報告検討。記念事業の推進検討。

主なサービス内容

- システム開発
- 自動レアウトシステム
- 電子マニュアル、電子カタログ
- インターネットサポート
- HTML、SGML、XML文書制作
- CD-ROM制作、PDFファイル制作
- デジタルカラーマネジメント
- データベースサポート
- CTP対応、オンデマンド対応
- 一般印刷
- デザイン、イラスト、取材、撮影
- 商業印刷、出版印刷、事務印刷

株式会社 文栄社  
TEL: http://www.bbe.co.jp  
E-mail: bunal@bbe.co.jp  
☎(03)3662-1951 FAX(03)3661-9735  
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-14-11